



今月は、令和5年7月に福井県大野市で行われた、第12回全日本フィリースタイルスケート選手権大会(ジュニア男子部門)で好成績を収めた鹿島蒼大さんと大知さんを紹介します。

フィリースタイルスケートはインラインスケートで滑る速さを競ったり、音楽に合わせて技を繰り広げたりする競技です。蒼大さんは7歳のときに幼なじみから誘われたことがきっかけでインラインスケートを始めました。さまざまな技ができるようになり、熱中していく蒼大さんを見て「面白そう。僕もやってみたい」と触発された大知さんも始めたそうです。

2人は自宅だけでなく、加須市や神川町、前橋市の体育館まで行き、3時間から長い時で7



兄弟で全国大会の舞台に

鹿島 蒼大さん(13歳)・大知さん(11歳)(持田)

時間も練習しています。また、学業にも手を抜かず、練習場への移動時間にも勉強するなど、文武両道に励んでいます。

2人が初出場した大会は平成31年に開催された、全日本フィリースタイルスケート選手権大会(東海・北陸ブロック大会)で、9歳と6歳の時でした。蒼大さんはクラシックスラロームで7位、スピードスラロームで6位、大知さんは初心者が参加するチャレンジクラスのクラシックで1位、スピードで2位でした。この結果を踏まえ蒼大さんは「基礎をやり直したい」とさらに練習に打ち込み、大知さんはその姿に刺激を受け、互いに切磋琢磨していったそうです。そして今年の7月に開催された第12回全日本フィリースタイルスケート選手権大会で蒼大さんは、スピードで優勝、クラシックで得意のかかとで回る技を駆使し3位。大知さんはスピードで2位、つま先で座ってスラロームする技を武器にクラシックでも2位を勝ち取ることができました。大知さんはクラシックで高スコアを獲得したため、11月に中国・上海市で開催される世界選手権の出場選手に選ばれ、「ぜひ世界の舞台に挑戦したい」と意気込み、蒼大さんは「来年は大知とともに世界大会に出場します」と目標を語ってくれました。

兄弟であり、ライバル同士の2人は今後互いに刺激を与え合いながら大いに活躍していくことでしょう。

来て! 見て! 図書館

行田市立図書館 開館時間: 午前9時~午後7時
 佐間 3-24-7 休館日: 11月6日・13日・20日・27日・30日、12月4日・11日
 TEL: 556-4227 FAX: 555-3770
 ※休館日の図書返却はブックポストをご利用ください。

読み聞かせボランティア養成講座(基本編)

ボランティアとして読み聞かせ経験のない方、もしくは経験の浅い方のために、基本的技術や知識を学ぶ講座です。

- ▶日時 12月3日(日)・17日(日)・24日(日) 午前10時~正午(全3回)
- ▶場所 中央公民館第2学習室
- ▶講師 小野寺りり子さん(おはなしボランティア指導者)
- ▶対象 次の全てに該当する方
 - ・ボランティア活動希望の方
 - ・3日間の講座に参加できる方
 - ・読み聞かせを学びたい、知りたい方
- ▶定員 10人程度(先着順)
- ▶申し込み 11月7日(火)~24日(金)に電子申請、直接、電話のいずれかの方法により図書館



第21回 大人のための朗読会

小説や絵本など多様なジャンルの作品を皆さんにお届けする朗読会を開催します。

- ▶日時 11月21日(火)午後1時30分~3時40分 (午後1時開場)
- ▶場所 「みらい」文化ホール
- ▶内容 「走れメロス」より「満願」太宰治/著 新潮文庫 「堪忍箱」より「お墓の下まで」宮部みゆき/著 新人物往来社 その他7作品の朗読を行います。
- ▶定員 200人
- ▶協力 行田朗読の会
- ▶その他 申し込み不要

ぎょうだ電子図書館 読み放題コンテンツ

ぎょうだ電子図書館 (<https://web.d-library.jp/gyoda/>) 10月1日から新たに92点が読み放題コンテンツに加わりました。読み放題コンテンツは借りなくても読むことができる電子書籍です。(要ログイン) ぜひご利用ください。



行田 歴史系譜 356

資料がかたる 行田の歴史

お寺の名前にみえる藩主の「ご先祖様」

文政6年(1823)の三方領知替により、桑名からやってきた松平下総守家(奥平松平家)が新たに忍を治めることになりました。この時、松平下総守家にゆかりのあるものが桑名から忍へともたらされましたが、その一つがお寺です。当時、松平下総守家は6つの菩提寺を持っており、江戸谷中の天眼寺と京都の天祥院を除いた4つのお寺は移封のたびに引っ越しをしていました。このうち、市内に現存するのは天祥寺(埼玉)、桃林寺(城西)、大蔵寺(駒形)の3つです。4つ目の龍源寺は大蔵寺の近くにありましたが、明治時代に廃寺となっています。いずれも、松平下総守家の祖とされる松平忠明が郡山城(奈良県)に在城していた時代に創建されたと伝わります。ところで、これらの寺名にはどのような由来があるのでしょうか。天祥寺は、



奥平貞能画像 (大蔵寺所有・郷土博物館保管)

松平忠明の法名である「天祥院」から名付けられたもので、藩祖である忠明を祀るお寺です。桃林寺は、忠明の兄である松平家治の法名「桃林院」に由来します。家治は14歳の若さで亡くなっており、桃林寺はその供養のために建てられたお寺なのです。そして大蔵寺は、奥平貞能の法名「大蔵院」から名付けられました。奥平貞能は三河国作手(愛知県新城市)の戦国武将で、松平忠明の祖父にあたる人物です。天正元年(1573)に徳川家康から破格の条件をもちかけられ、これを承諾したことで奥平家は徳川家と強い結びつきを得ることになりました。条件の中には、貞能の長男信昌と家康の長女亀姫が婚姻を結ぶことも含まれており、二人の間に誕生したのが忠明です。藩祖の祖父であり、徳川家との結びつきを導いた貞能は、松平下総守家にとって大変重要なご先祖様であるといえるでしょう。大蔵寺には、江戸時代前半に描かれたとされる貞能の肖像画も伝来しています。(郷土博物館 岡本夏実)

私の作品



俳句

小見 三宅 典之
 リフォームの湯船に響く虫の声

緑町 松林 真弓
 身に入むや父のふるさと墓仕舞

荒木 藤田 栄之
 城壁の狭間抜けゆく秋の風

谷郷 羽石 芳道
 蟪蛄は見境もなく斧かざす

持田 小倉 繁三
 永らへて敬老の日の酒五勺

長野 矢内はる子
 秋麗や蕪村の一句簞袋

渡柳 川田 静江
 葎生やいつまで続く休耕田

忍 伊藤 誠一
 つつがなく癌検終えて秋祭り

富士見町 鈴木スイ子
 庭の菊もつともつと水ねだる

長野 牧 努
 蓮の実の天に飛びゆくときかな

忍 松岡 弘子
 卒寿とてうす紅色の恋ごころ

谷郷 森 洋子
 草も木も吾の心も末枯れて

城西 榊原しずか
 星空を天井として村芝居

門井町 井上タカ子
 ぶどう袋朝日に透けて恙無し

小見 川島 盾子
 月白し巨大臓器の透けて見え

榊上 吉澤とし子
 次郎長のひと節残暑忘れたり

○俳句応募方法 一人3句以内。毎月末日(必着までに)、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、はがき・封書で広報誌へ。なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。